

ゆう PRESS

社会のあり方変えたい



©Wei Xiaobo

ドキュメンタリー映画監督

早川 由美子^{さん}

ここ10年近く、まともな家賃を払って暮らしたことがないんです。会社の寮だったり、安いゲストハウスでの生活だったり。今は姉の家に居候をしながら映画を作っています。住宅問題に興味をもつようになったのは、こうした経験のなかで高い家賃を払うのは無駄だなと思ったからです。そんなとき耐震性

月曜 Letter

の不足を理由に取り壊しが決まったUR（旧住宅公団）管理の高幡台団地（東京都日野市）73号棟の住民と出会いました。取り壊しに反対する住民たちの会議に参加すると、問題は深刻なのに笑いにあふれ、みなさんとても魅力的でした。それで、この問題をまとめて「さようならUR」というドキュメンタリー

ー映画を作りました。UR側は情報公開や取材をしぶったので、仕方なく約束なしで直撃取材をしました。公共の住宅を扱うという自覚がまったくありませんでした。

自分たちの手に取り戻さないと未来がない。社会のあり方自体を変えたいと思いつながら映画を編集しました。ジャーナリズムの勉強をしたといふイギリスへ留学したとき、初めて反戦デモに参加しました。すると普通にデモしている市民を、政府は機動隊を出動させて、暴力的に鎮圧したんです。翌日、新聞の1面だ

ろうと思ったなら、ほとんど取り上げておらず、取り上げているメディアでも市民が暴徒化したと書いてあった。本当に驚きました。日本でも、市民がデモや座り込みなど平和的に声をあげ始めていますね。私も撮影に行っています。大手メディアも政府も、もっと市民に目を向けてほしい。文・栗原千鶴